

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日: 2022年 9月30日

事業所名: SAL

サービス種類: 放課後等デイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	十分に確保できている。教室が密になりすぎないように1度に来る利用者を6人以内になるよう調整している。	はい22 どちらともいえない1 いいえ0 わからない1	現状を維持する。
	2 職員の適切な配置	職員1人あたり1~2名の利用者が担当となる様に、職員を配置している。	はい20 どちらともいえない1 いいえ0 わからない2	教員免許や心理職の資格のある職員を優先的に配置する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	ビルの3階なのでバリアフリーは構造上難しい。教室内は支援時間の配分などを見やすいように掲示しており、タイマーでチャイムを鳴らしている。	はい19 どちらともいえない2 いいえ2 わからない1	現状を維持する。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日開所すぐと閉所前に掃除をしている。カバンを置く用の箱も新調した。	はい21 どちらともいえない2 いいえ0 わからない1	こまめに掃除をし、消しゴムのゴミなどは利用者にも片付けさせて教室美化を意識させる。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	社内で年間の目標管理・業務改善点などについて管理職と面談を持っている。		現状を維持する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	支援開発室の新設により、第三者から見た支援や教室管理などの評価・助言を受けている。		今年度の支援の見直しと改善をより良いものにするために保護者や外部からの情報・意見を取り入れる。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	市・県や市内事業所主催の研修の案内があると教室に掲示して参加を促している。		各職員に研修会の積極的な参加を呼び掛ける。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	日々の利用者たちの担当、観察、日報の共通理解を通して半年ごとに個別支援計画を作成している。		前期3月末~4月、後期9月末~10月に個別支援計画のモニタリングを見直し・評価をして時期の計画を作成する。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	学習時間は個別活動、休憩時間と後半は集団活動を取り入れ、支援計画書に各自の課題を盛り込んでいる。	はい24 どちらともいえない0 いいえ0 わからない0	現状を維持する。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	学習面と行動面の実態と様子、それに対応して具体的な支援を記載した個別支援計画書を半年ごとに作成している。		現状を維持する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画書・サービス利用計画書を日報ファイルに閉じてその日の担当者が参考にできるようにしている。	はい24 どちらともいえない0 いいえ0 わからない0	現状を維持する。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	学習内容、教材、休日クラスの内容については適宜ミーティングをして決めている。	はい16 どちらともいえない6 いいえ0 わからない1	正職員だけでなく非常勤の方々にも積極的に教材づくりや素読の教材の案・SSTのプランに参画してもらう。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	利用時間は長期休暇も通常時と同じにして 混乱を少なくするようにした。夏休みにはいつもより早い時間帯の学習時間も設定した。		通常の時間帯以外に試験前や試験中に早く利用できる時に学習時間を提供する。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節感を感じるよう教室の掲示物を毎月利用者と一緒に作成し、季節の言葉などを学習している。		現状を維持する。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援開始までに予定票にその日の担当者を記入して、非常勤の方にもお伝えし、学習や活動の流れを伝えている。		現状を維持する。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	日報の記録と支援終了後に各自気が付いたこと、特記すべきことなどの情報交換をしている。	現状を維持する。	
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の支援は毎回日報に記録し、管理者および児発管によるチェックをしたうえで保管し、指導の上での検証・改善を実施している。	現状を維持する。	
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	3月末前期、9月末後期の終了時に個別の支援計画を見直し、評価する会議を実施している。	現状を維持する。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	相談支援事業所から電話でのモニタリングの問い合わせに対応したり、来所されて会議を持つこともある。		現状を維持する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	対象者なし		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	対象者なし		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	利用者が小学4年生以上であるため、実施していない。		
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	今年度は情報提供する機会がなかった。		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	市内の事業所連絡会に参加、支援センター主催の研修会には非常勤を含め全員が参加できるよう社内に掲示している。		
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	地域のこども食堂への協力と利用者の参加、教室のある商店街との交流を進めている。		教室のある商店街主催の子ども食堂に月に一度参加するよう小学生の利用者に呼び掛けて数名参加した。しかし、現状では他の施設との交流や地域住民を招待するような活動することは難しい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域住民を招待するような事業を開催する機会が持っていない。	はい3 どちらともいえない3 いいえ2 わからない13	また、交流があることを対象の保護者以外に周知する手段がないため、「わからない」が多いと思われる。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	見学の際と初回利用の契約の際に説明をしている。	はい21 どちらともいえない3 いいえ0 わからない0	現状を維持する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	前期、後期の変わり目に個人面談・LINEでの聞き取りなどでこれまでの支援を振り返り今後の支援に反映させる。	はい23 どちらともいえない1 いいえ0 わからない0	現状を維持する。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	利用者の年齢層が高いため、ペアレント・トレーニングが必要な対象ではない。	はい10 どちらともいえない6 いいえ3 わからない4	保護者向けの講演会や学習会の情報を提供する。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳で日々の様子や活動内容を報告しており、必要がある時は電話や面談で連絡する。LINEを使うようになって連絡がよりスムーズになった。	はい20 どちらともいえない3 いいえ0 わからない0	現状を維持する。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	問い合わせがあった時には適時対応、必要に応じて面談を設定している。	はい19 どちらともいえない5 いいえ0 わからない0	現状を維持する。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母会、保護者会の組織はないが、保護者も参加できるイベントを開催して参加を促している。	はい10 どちらともいえない4 いいえ5 わからない5	今後も保護者が参加できる学習会やイベントを企画する。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	事業所内に苦情受付窓口を設置、苦情を受けた際は運営規定にのっとり対応する。	はい16 どちらともいえない2 いいえ0 わからない6	現状を維持する。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	日々の連絡帳やLINEを使って情報を伝達している。	はい23 どちらともいえない1 いいえ0 わからない0	現状を維持する。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月の利用予定票配布の際に、予定行事についての案内のプリントを作成。LINEを活用することで連絡が密に取れている。	はい16 どちらともいえない4 いいえ1 わからない0	現状を維持する。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	社員には秘密保持に関する契約書を入社時に取り交わしているとともに、子どもの個人情報使用に関する同意書を保護者よりいただいている。	はい23 どちらともいえない0 いいえ0 わからない1	現状を維持する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアル(感染症、危機管理)を作成し、運用中。緊急時の携帯電話番号、LINEを保護者に登録してもらい、対応する。	はい22 どちらともいえない2 いいえ0 わからない0	現状を維持する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回の避難訓練(火災を想定した避難と地震を想定した安全確保)を実施。1~2月に緊急LINEや緊急電話を受ける訓練を実施予定。	はい18 どちらともいえない3 いいえ1 わからない3	今後も1年の内に火災避難訓練、地震訓練を実施する。実施していることを実施日以外の保護者にも伝える手段を検討する。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	社内での研修会、事業所内での勉強会を実施。虐待防止、虐待時対応マニュアルを作成、運用中。		現状を維持する。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、理解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束を必要とする利用者はなく、今までにも拘束の機会はなかったが、やむを得ない場合について起こりうることを職員間で共有する。		やむを得ない場合の身体拘束について、デイサービス計画書にも記載するようにする。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	家庭からの聞き取りにより、料理やイベントの時に対象の利用者の食べられる物を考慮している。		今後も入所時の面談、年度初めの利用者情報の提供文書でアレルギーの有無を確認する。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットは法人内各教室管理者ミーティングで毎月共有。大きな事例の場合は事業所内の会議でスタッフにも周知共有する。		今後も法人内の事業所の事例を事業所内で共有をする。